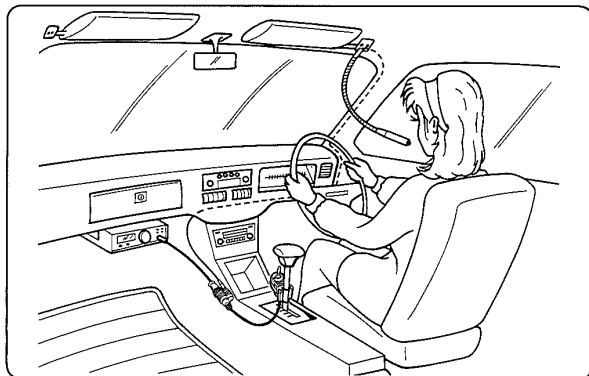


★★フレキシブル型モービルマイクロホン★★

12V用

- **安全運転をお約束するフレキシブルマイク**
 - ・フレキシブルマイクはサンバイザーと共締め
 - ・送・受信切換スイッチ(PTTスイッチ)はチェンジレバーに!!
オートマチック車にも取付可能
 - ・UP/DOWNスイッチ及び送信表示LED付
 - ・出力調整ボリューム付でマイク感度可変可能!
 - ・マイク変換コード方式の採用により、各社無線機に対応!!(弊社製別売)
- **電源供給型マイク変換コード対応**
 - ・車載バッテリー(DC12V)または無線機(マイクコネクター)のどちらでも電源供給が可能!!
 - ※無線機のマイクロホン端子から、マイクに電源を供給している無線機にご使用の場合は、電源供給型マイク変換コード“Dシリーズ”(弊社製別売)で接続すると、電源供給線の配線が不要。
- **警報音付無変調防止回路の採用**
 - ・連続送信になればアラーム回路が作動し、警報音が鳴った後、自動的に受信状態にもどります。



〈FX-5仕様〉

- 高性能
エレクトレットコンデンサーマイク……1
- フレキシブルパイプ……φ8(全長28cm)
- マイクコード……3m
- 入出力コード……70cm
(8P中継ジャック付・ピンジャック付)
- 適合出力インピーダンス……500Ω~100kΩ
- 出力電圧……0~50mV(RMS)
- 電源電圧
 - 電源供給線(赤色線)にて供給の場合……DC12~15V
 - マイク変換コード(Dシリーズ)にて供給の場合……DC5~9V
- スイッチボックス部形状……44(H)×38(W)×67(D)mm
- 重量……240g

ご注意 台紙は内開きになっていますので、必ず内面の取扱説明書をお読みください。



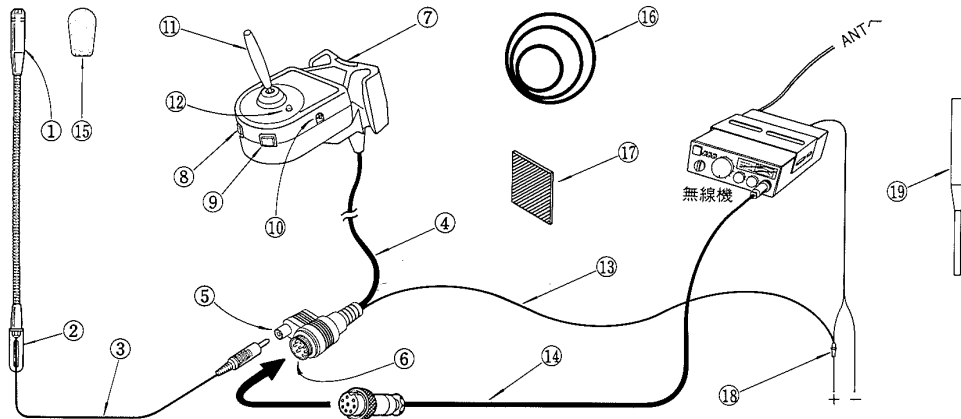
フレキシブル型モービルマイクロホン 取扱説明書

このたびは、アドニス電機のモービルマイクロホンFX-5をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

このFX-5は、警報音付無変調防止回路 およびマイク出力調整機能を備えた、単一指向性高性能モービルマイクロホンです。

ご使用に際しましては、本機の性能を十分に発揮させていただく為この説明書をよくお読みいただき、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は保証書と共用になりますので、お読みになった後も大切に保管してください。

●各部の説明(1図)

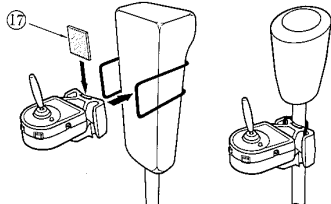


- | | | |
|---------------|-------------------|------------------------|
| ①フレキシブルマイク | ⑨DOWN スイッチ (灰色) | — 付 属 品 — |
| ②止め金具 | ⑩出力調整ボリューム | ⑮風防 (紺) |
| ③ピンプラグ付マイクコード | ⑪PTT スイッチ | ⑯固定ゴムバンド (φ40、φ60、φ75) |
| ④入出力コード | (送・受信切換スイッチ) | ⑰ゴム板 |
| ⑤マイク入力ピンジャック | ⑫送信表示ランプ (LED) | ⑱電源供給用コネクター |
| ⑥8P中継ジャック | ⑬電源供給線 | ⑲出力調整用ドライバー |
| ⑦スイッチボックス | ⑭マイク変換コード (弊社製別売) | |
| ⑧UP スイッチ (青色) | | |

●取付方法及び接続方法

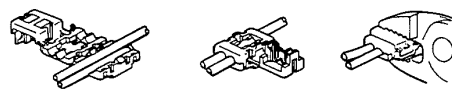
- フレキシブルマイク①の止め金具②を、サンバイザーと共締めするか、適当な場所へ工夫して取付けてください。(風防⑮をフレキシブルマイク①に付けてご使用ください。)
 - スイッチボックス⑦は、付属の固定ゴムバンド⑯でチェンジレバーに取付けてください。不安定な場合は、付属のゴム板⑰を挟み固定してください。(2図参照)
 - スイッチボックス⑦から出ている入出力コード④のマイク入力ピンジャック⑤に、ピンプラグ付マイクコード③を差し込んでください。
 - ご使用の無線機に適合したマイク変換コード (弊社製別売) ⑭を、入出力コード④の8P中継ジャック⑥と無線機の間に接続してください。(マイク変換コードには方向性がありますのでご確認の上、間違わないように接続してください。)
 - 電源供給線⑬は、付属の電源供給用コネクター⑱で無線機の電源の⊕側に接続してください。(3図参照)
- ※無線機のマイクロホン端子に、電源 (DC5V~9V・50mA) を供給している無線機にご使用の場合は、電源供給型マイク変換コード "Dシリーズ" (弊社製別売) で接続すると、電源供給線⑬の配線が不要になります。(詳しくは、弊社製マイク変換コードおよびご使用の無線機の取扱説明書をお読みください。)

●スイッチボックス⑦の取付方法(2図)



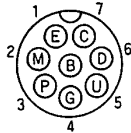
- 付属のゴムバンド⑯でチェンジレバーとスイッチボックスとを、しっかりとめてください。
- 取付けが不安定な場合、付属のゴム板⑰を間に入れてください。

●電源供給用コネクター⑱の接続方法(3図)



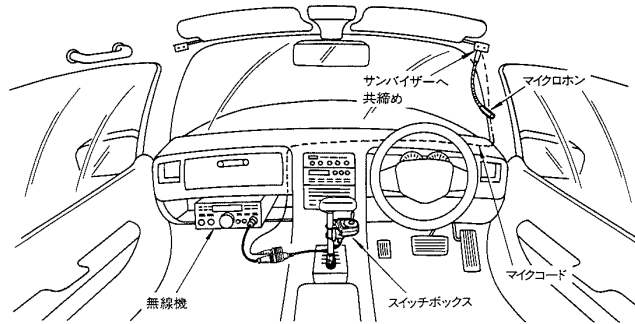
1. 無線機の電源供給線の⊕側とマイクの電源供給線⑬をコネクタの溝に沿わせて置きます。
2. そのままの状態 で電線 を仮固定する。
3. プライヤーでロックするまで完全に押える。

●8ピンアドニス配列(4図)
(8P中継ジャック⑥)



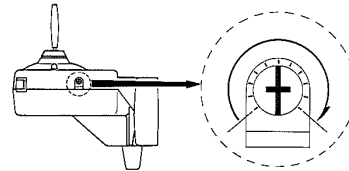
- ① E:アース(マイク信号用)……シールド
- ② M:マイク信号……………黄
- ③ P:PTT(プレストーク)……赤
- ④ G:アース(PTT用)…………紫もしくは青
- ⑤ U:UP(アップ)……………緑
- ⑥ D:DOWN(ダウン)………白
- ⑦ C:U/Dコモン……………橙
- ⑧ B:DC給電(+極)……………灰

●取付例(5図)



●ご使用方法

- PTTスイッチ①をT側に倒すと送信状態になり、送信表示ランプ⑫が点灯し送信状態に切換ったことを知らせます。
また、R側に倒すと受信状態になり、送信表示ランプ⑫は消灯します。
- UPスイッチ⑧及びDOWNスイッチ⑨は、無線機付属のマイクロホンのUP/DOWNスイッチと同じ動作をします。(詳しくは、無線機の取扱説明書をお読みください。)
- マイク部の先端から口元までの距離が10cm以内になるようにしてご使用ください。
- 出力レベルは、適正なレベルに調整されていますが、ご使用の無線機により多少異なりますので、変調が深すぎたりする場合には、下記の要領にて調整してください。
出力調整ボリューム⑩を右(時計回り)に回すと出力は増加し、左(反時計回り)に回すと減少します。ローカル局にモニターしてもらいながら、6図に表示してある回転範囲内を付属の出力調整用ドライバー⑬で静かに回して調整してください。
(左右に約100度しか回りません。)
回し過ぎますと、破損する恐れがありますので十分注意してください。なお、6図の位置でほぼ中央になります。



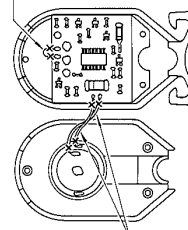
※ 6 図

●無変調防止回路について

PTTスイッチ①が不用意に作動した場合や通常の交信においても、送信状態が約2分30秒間続けばアラーム回路が作動し警報音が約30秒間鳴った後自動的に受信状態になります。
ただし、アラームは鳴り続け送信表示ランプ⑫は点灯したままです。
無変調防止回路解除の方法は7図を参照してください。

◎無変調防止回路解除について(7図)

本体裏 ぶたのネジを3本外し、中の基板を下記のように変更してください。
無変調防止回路解除の場合はジャンパーリードを切断してください。



アラーム回路解除の場合は黄色のリード線を切断してください。

●回り込み対策について

ローパワーで送信すれば正常であるのに、ハイパワーで送信した場合変調が異常になったりバリバリという音が混入したり、その他の雑音(マイクに直接入るエンジン音ではありません)が増すことがあります。その場合アンテナと同軸ケーブルとの整合が悪く、定在波がマイクコードに乗ることが考えられます。従って、マイクコードの引き回し方を変えると良くなる場合があります。特に同軸ケーブルと平行にしないようにしてください。また、アンテナと送信機とのSWRをチェックしてみてください。

ご注意とお願い

- QSO中や出力レベルの調整を行なう時には、マイクロホンを叩いたりしないでください。
- 弊社製以外のマイク変換コードを使用すると正しく動作しない場合がありますので、必ず弊社製を使用してください。弊社製以外のマイク変換コードのご使用によるトラブル、故障等については一切の責任は負いませんのでご了承ください。
- 直射日光の当たる場所や高温になる場所での使用及び放置は、変形・変質を招き本機に悪い影響を与えますので工夫して高温を避けるようにしてください。
- 本体内部は調整されていますので、不要な改造・調整はしないでください。
- 性能改善の為、予告なく仕様及びデザイン等を変更する場合があります。

〔アフターサービスについて〕

お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い、ご不審な個所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店、又は弊社に保証書を添えてお申しつけくださいますようお願い申し上げます。